

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10574001				
授業名	伝統文化と民俗世界 A	形態	講義	単位	2
担当教員	名和 清隆				
開講学期	2017年度 前学期	曜日・時限	水曜3限		
授業目的	日本の伝統的な文化、民俗事象についての理解を深め、現代における変化とその意味について考える				
授業内容	日本の伝統的な人生儀礼、年中行事、祭りを取り上げることにより、日本における伝統的な文化や生活様式について学ぶとともに、「日本人のいのち観」、「カミと人との関係性」などについて考えていく。また、現在、伝統的な文化が大きく変容しているが、その変化の背景と意味について考える。				
到達目標	日本の伝統的な文化についての基礎的知識を身につける 地域による多様性について理解する 伝統的な文化の変容とその背景と意味について理解する 伝統的な文化の継承に貢献する態度を養う				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> この科目を履修することにより、人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有することができる。				
授業形態	授業は講義形式で行うが、ビデオなどの視聴覚資料も多用する。毎回宿題（事後学習）を課し提出してもらう。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要とする。合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	使用テキスト 石井研士『日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性』（春秋社） 参考文献 新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社） 八木透編『日本の通過儀礼』（思文閣出版）				
評価方法	テストを実施する。テスト点数、事前学習、事後学習、授業への参加態度など総合的に判断して評価する。				
評価基準	テスト点数75%、事後学習ノート20%、ほか5%				
試験・レポート等のフィードバック	14回目に試験、および事後学習ノートを提出してもらい、15回目に試験の解説、事後学習ノートの返却を行う。				
注意事項及び履修条件	事前学習、事後学習をしっかりと行うこと。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	『日本人の一年と一生』の「まえがき」を事前に読んでおく。				
授業内容	本科目の概要、学習方法、注意点などについてのオリエンテーションを行った後、日本の伝統的な文化と民俗行事の宗教的意味について、具体的な例を挙げながら確認をする。				
事後学習	これまで自分の家庭や地元で経験した人生儀礼、年中行事、祭りなどについて出来るだけ具体的まとめる。				
参考文献					
第2回					
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』 p 1 2 8-1 3 4 を読んでくる。				
授業内容	日本における人生儀礼について概観し、その儀礼の構造と機能について考える。				
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 P 1 2 2-1 2 3 を読み理解を深める。				
参考文献					
第3回					
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』 p 1 3 5-1 4 1 を読んでおき、誕生の儀礼の概要について理解をする。				
授業内容	妊娠から誕生、生後1年までの間には、様々な誕生の儀礼が行われる。この一連の儀礼を見ることにより、日本人は「いのち」をどのように見てきたのかを考える。				
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 p 3 0-3 1、1 2 4-1 2 9、『日本の通過儀礼』 p 3-3 9 を読				

	み、理解を深める。
参考文献	
第4回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』 p 152-157 を読んでおき、成人儀礼の概要を理解しておく。
授業内容	エチオピアのバナ族の成人式を通じて、成人儀礼の意味、構造について学ぶ。
事後学習	参考文献『日本の通過儀礼』 P 43-68 を読み、成人儀礼の多様性について理解を深める。
参考文献	
第5回	
事前学習	前回の授業を復習し、現在行政主体で行われている「成人式」の起源について調べておく。
授業内容	福島県東和町の成人儀礼である「幡祭り」についてのビデオを見ることにより、成人儀礼が個人と共同体に持つ意味について考える。またこの事例を通じて、日本における神のまつり方についても確認をする。
事後学習	参考文献『日本の通過儀礼』 P 69-100 を読み、授業では焦点を合わせなかった、女性の成人儀礼について補足的に学ぶ。
参考文献	
第6回	
事前学習	テキスト『日本人一年と一生』 p 158-180 を読み、結婚の意味と儀礼の概要について理解をする。
授業内容	結婚の意味と儀礼について。日本における婚姻形態を確認するとともに、ビデオを見ることにより結婚式が共同体において持つ意味について考える。現在私たちが見ることのできる結婚式の形式がいつどのようにして始まったのか、どのように行われているのかを確認し、伝統的な結婚式との意味の違いについて考える。
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 p 32-35、208-213、320-321 『日本の通過儀礼』 p 103-150 を読み、理解を深める。
参考文献	
第7回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』 p 190-200 を読み、概要を理解しておく。
授業内容	日本人は死をどのような現象として捉えていたのかを、伝統的な葬式を見ることにより考える。
事後学習	参考文献『日本の通過儀礼』 p 203-223 を読み、日本の伝統的な葬送習俗についての理解を深める。
参考文献	
第8回	
事前学習	インターネットで葬祭業者のホームページを閲覧し、現在お葬式がどのような形で行われているのかを調べておく。
授業内容	現代における葬式の変化を見ることにより、その背景にある社会構造の変化と死生観の変容について考える。
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 p 50-53、70-75、124-125、320-327 を読み、葬式に関する習俗、関わる集団、葬式の変化について理解を深める。
参考文献	
第9回	
事前学習	参考文献『日本の通過儀礼』 p 224-241 を読み、墓についての基礎的理解を持つ。
授業内容	墓の変化を見ることにより、家族形態や死者観の変化がどのような墓の変化として現れているのかを考える。
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 p 138-141 を読む。さらに興味がある人は、小谷みどり『変わるお葬式、消えるお墓』（岩波書店）を読んで理解を深めてほしい。
参考文献	
第10回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』 p 4-14 を読み、年中行事の概要を理解する。また、自分の現在の生活の中で行っている年中行事と小学校時代に行っていた行事を挙げてみて、両者を比較をしてみる。
授業内容	日本における年中行事について概観する。現代において行われている様々な年中行事はどのように始まり、また変化してきたのか、一年というサイクルの中でどのような意味を担っているのかについて確認する。
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』 p 144-154 を読み、年中行事の構成について理解を深める。
参考文献	

第11回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』p15-40と読み、正月行事の構成と変化の概要について理解する。
授業内容	伝統的な正月行事について、大正月・小正月、その他一連の行事を確認し、その構造と意味について考える。また現代的変化をみることにより、正月行事の意味の変化について考える。
事後学習	参考文献『民俗学がわかる事典』p20-25を読み、理解を深める。
参考文献	
第12回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』p85-96を読み、盆行事の概要を理解する。
授業内容	日本の伝統的な先祖まつりである盆行事について見ることにより、日本人は死者をどのような存在として捉え、どのようにまつってきたのかを考える。
事後学習	自分の家で行っている盆行事、あるいは祖父母の家で行っている盆行事について、どのように行っているのか家の人に聞いてまとめてみよう。
参考文献	
第13回	
事前学習	テキスト『日本人の一年と一生』p46-63、74-78、97-125を読み、それぞれの外来行事が定着化する要因の相違について理解する。
授業内容	外来の年中行事であるクリスマス、バレンタインデー、母の日などがどのように日本に定着していったのかを、その社会的背景とともに見る。
事後学習	参考資料『民俗学がわかる事典』p332-335を読み、さらに理解を深める。
参考文献	
第14回	
事前学習	試験に向けての準備
授業内容	試験
事後学習	試験の振り返りをする
参考文献	
第15回	
事前学習	試験の振り返りをしてくる
授業内容	テストの解説
事後学習	解説をもとに間違えた箇所を確認し理解を深める
参考文献	
※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。	
ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-（1）> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-（2）> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（3）> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（4）> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>